

主催：学習院大学身体表象文化学会 共催：学習院大学文学会

2019年度第1回例会

第6回ゾンビ映画研究会

開催日時：2019年7月27日(土)14:00~18:30

会場：学習院大学南1号館201教室

入場無料・予約不要

概要

2016年、ヨン・サンホ監督による2本のゾンビ映画の公開が大きな話題を呼んだ。実写作品『新感染 ファイナル・エクスプレス』と、その前日譚をアニメーション化した『ソウル・ステーション／パンデミック』である。両作は、表現手法こそ異なれど、ともに現代の韓国を舞台とし、「ゾンビ化」する社会に翻弄される「父娘関係」を活写した。

このたびの「ゾンビ映画研究会」では——後者を視野に入れながらも——前者『新感染』を研究対象とする。作品を鑑賞後、これについて、まず会員の岡田尚文氏（表象文化学・映画史）と中里昌平氏（演劇論・思想史）に解説を、その後、新井保裕氏（社会言語学・韓国朝鮮語学）にご講演をいただき、最後に参加者全員で多角的に議論することとしたい。

研究対象

新
感
染

ファイナル・エクスプレス

【プログラム】

司会：芹澤円（学習院大学ドイツ語圏文化学科助教）

14:00～ 上映

ヨン・サンホ『新感染 ファイナル・エクスプレス』（2016年・韓国・118分）

16:15～ 作品解説1

「『ナイト・オブ・ザ・リビング・デッド』と『新感染』——「恥氣」をめぐって」
岡田尚文（学習院大学非常勤講師）

16:30～ 作品解説2

「ジェントリフィケーションの事例から考えるソウルの「現在」」
中里昌平（学習院大学大学院身体表象文化学専攻博士前期課程修了）

16:45～ 講演

「映画『新感染』に見られる韓国」
新井保裕（東洋大学国際教育セシタ－特任助教）

17:30～ 全体討議

公式Twitter (@guscscvn)
にて最新情報を更新！→

